

## 第 1回検討会の論点の整理

<p>1. 海岸保全基本方針、ランドデザイン、中期計画の関係</p>	
<p>今後の計画論は、計画のフィードバックをどのように考えるのかが重要。国民からのフィードバックということは非常に重要だが、前提条件を変えないという点に疑問がある。(資料 4 の図 2 に関して) 新たな中期計画は、むしろランドデザインに対してフィードバックするという考え方を示す必要がある。そうでなければ、従来の五箇年計画をただ延長すると受け取られる可能性がある。</p>	<p>経済、社会情勢や国民の意見に基づき、計画期間中においても、適時に見直しをおこなう。また、必要に応じて中期計画からランドデザインへのフィードバックを行う。</p>
<p>(海岸保全基本方針をありきとした) 計画論の立て方が旧時代的である。政府が示す"計画策定の必要性の検証"に対応して、その回答を議論する必要がある。海岸保全基本方針についても議論する必要がある。</p>	
<p>2. 中期計画の必要性、見せ方、内容</p>	
<p>従来の長期計画にも問題はあったが、長期計画をなくして無手勝流で毎年毎年が勝負となると弊害がすごく大きい。5年間ぐらいにどれだけ緊急で必要なものがあるかという見通しは持っておいたほうがよい。</p>	<p>・国民に対する海岸保全の「サービス内容、サービス水準」として「政策目標」を「アウトカム指標」と「整備量」でわかりやすく示す。</p> <p>・経済社会情勢の変化に適切に対応して、政策目標を効率的、効果的に達成していくための方策について「重要事項」に多様な角度から示す。</p>
<p>所管官庁として、5年間程度の期間における緊急で必要な事業量を把握しておく必要がある。これは絶対の長期計画ではなく(毎年予算をつけなければいけないというものではない)、見通しとして把握しておくが良い。</p>	
<p>海岸事業は地域住民に非常にわかりにくい仕事のやり方だった。安全性をどこまでやるかという中期的な目標を住民に明確にすべきだ。</p>	
<p>海岸事業は住民に見えない。情報公開によって便益を住民に見てもらわなければならない。</p>	
<p>中期的な目標を住民に明確に示し、それを着実に進めていくことが必要である。従来の計画は事業量や整備水準等を中心としており、国民に見えない、分かりにくいものである。</p>	

<p>海に対する国民の意識にギャップがある。近隣の住民は自分たちの生命、身体、財産の安全を優先し、外部からの来訪者は環境の良さを期待する。このギャップを埋めることが一つの問題ではないか。</p>	
<p>海岸侵食など深刻な問題については、事業量も明示すべき。</p>	
<p>中期目標や最終目標というのは一人歩きする恐れがあり、慎重に目標数値を設定する必要がある。</p>	
<p>「一定の安全水準」というのは国民から見ると分からないので、説明する必要がある。</p>	
<p>(国と地方の関係)</p>	
<p>防護、環境、利用という観点からみて、国の役割と地方の役割を分ける必要がある。国は防護・安全面に重点を置き、環境と利用は地方に任せたい。</p>	
<p>画一的な考え方ではなく、地域性に十分に配慮すべき。利活用については、国があるところまで言い、それ以外は地域に任せることが必要。</p>	
<p>国全体として優先度を付ける問題に関して、項目によってかなり取り扱いが異なると思われる。</p>	<p>・アウトカム指標のうち、国全体として優先度をつける必要がある項目については、目標値を記述する。</p>
<p>美しいというのは国ではなく地方自治体などが考えることで、国が強くなるべきではない。国が言うと強制になる。</p>	<p>・目標値を設定することで、地域性へ十分な配慮ができなくなる項目については、具体的なアウトカム指標の目標値を記述しない。</p>
<p>プレファレンスの世界、美観の問題等に関して、国があまり関心を持つ必要はなく、地方自治体の見識を問う程度の視点でよいと考える。</p>	
<p>アウトカムは、目標、事項によって、国と地方との関係が大きく異なるのではないか。</p>	
<p>国として扱うべきグローバルな環境と地域の環境があり、保全の問題が重要である。海岸線は生物多様性の宝庫であり、これについて国の計画として書くべき。</p>	

<p>地球生態系の中で日本列島が担っている役割というものがあり(ウミガメ 渡り鳥の保護等) 地方ではなく国の役割が重要になる。</p>	
<p>画一的な考え方で整理する時代ではないことから、今後、新たな方式を進めていく場合、地域性に十分配慮する必要がある。利活用に関して、あまり細部にまで国が立ち入らず、分野を示す程度とし、後は地方に任せる方が良いと考える。</p>	
<p><b>3. 海岸の保全に関する政策目標について</b></p>	
<p>価値観が多様化している時代にあって"美しい"という概念の規定は難しく、そのような言葉を(概念の説明もなく)そのまま用いることは問題である。</p>	<p>・政策目標 人々は、津波、高潮、波浪などによる生命・財産・生活に関する被害が軽減される。</p>
<p>防護、環境、利用という枠組みが適切かどうかをまず確認しておく必要がある。もし、その枠組みが良ければ、次に、この枠組みの具体的な意味合いを詰めながら中期計画を議論する必要がある。</p>	<p>・政策目標 人々は、人の暮らしと自然環境が調和した豊かで美しい海岸環境を享受し、それを後世に伝えることができる。</p>
<p>防護、環境、利用の3本柱とし、これを社会にわかりやすい表現として「美しく安全でいきいきした」という表現とした。「美しく」は環境に対応している。</p>	<p>それぞれを大項目として、その下に7つの政策目標(小項目)、18のアウトカム指標より構成</p>
<p>アウトカム指標での緑化の問題の扱い方が限定的であるなど、利用や環境への配慮に関して現実的な対応に疑問がある。</p>	<p>各アウトカム指標は、現状、中期目標、最終目標、基本の方策、中期的な具体的方策等で表現</p>
<p>環境教育が重要であり、目標に入れるべき。</p>	
<p><b>4. 海岸保全を進めるに当たっての重要事項について</b></p>	
<p>海岸保全区域の幅を場所により広げる、土地利用を見直すなどにより、環境と防災を両立させるべき。</p>	
<p>環境は、海岸保全上のおまけではなく、大きな国民の資源である。社会環境も含めた海岸環境が重要であり、このような文化的環境の観点も含めて、構造物の作り方や管理の仕組みに弾力的に対処していく必要がある。</p>	
<p>国民が海づくり、海岸づくりに参加するという視点が弱いのではないか。活用に関しては民の力が大きいわけであり、その導入や規制緩和などを検討する必要がある。</p>	

<p>異なる分野の整合性や連携に関して、河川や砂防を含めた水系全体の問題が最も基本的な問題であり、海岸事業だけで解決できない問題があまりにも多い。海岸事業だけで全てできるのかという議論にならないよう適切な記述が必要である。</p>	
<p>公共事業の各分野で、何を優先・劣後するのかの吟味がまず必要。その上で、海岸事業において、各地域の個別事業の必要性、緊急性の吟味をきっちりやること(質的点検)が必要。緊急性については、それを評価する基準が必要。</p>	<p>・海岸保全基本方針に示されている「海岸の保全に関するその他の重要事項」に従い整理</p>
<p>海岸事業の必要性や緊急性をどのような客観的な基準で判断するかということに関して、ある程度の制度化、ルール化が必要である。必要性の基本は安全、防災にあると思われ、その評価方法を確立する必要がある。</p>	<p>・広域的・総合的な視点からの取組の推進 ・地域との連携の促進と海岸愛護の啓発</p>
<p>国土の安全に対してはハードだけでは対応できず、土地利用に対するソフト対策が必要で、規制や保険といった概念で民間を活用していくことが必要である。</p>	<p>調査研究の推進 ・各方策の基盤となるもの 海岸に関する情報の収集、公表 等</p>
<p>低いコスト化の技術開発を是非、国が行って欲しい。</p>	
<p>海岸の持つ観光資源としての効果、まちづくりにおける重要性を考慮に入れるべき。</p>	
<p>5.その他</p>	
<p>海岸は海への入り口であり、ときには人命を損なう危険な場所である。」と言い切っているが、逆にもっと積極的に、安全な場所であるという部分でハードやソフトを見ていく(国民に対しても説明していく)必要がある。</p>	
<p>地方の市町村も自分たちの海岸であるという意識で、交流の場や清掃などに参加している。国民のもの、そして地域の海岸として、地域も責任を果たしていきたいと思っており、提言したものを実現できる保証(地方への財源委譲)が必要である。</p>	
<p>海岸のもつ健康との関わりを重視すべき。</p>	